

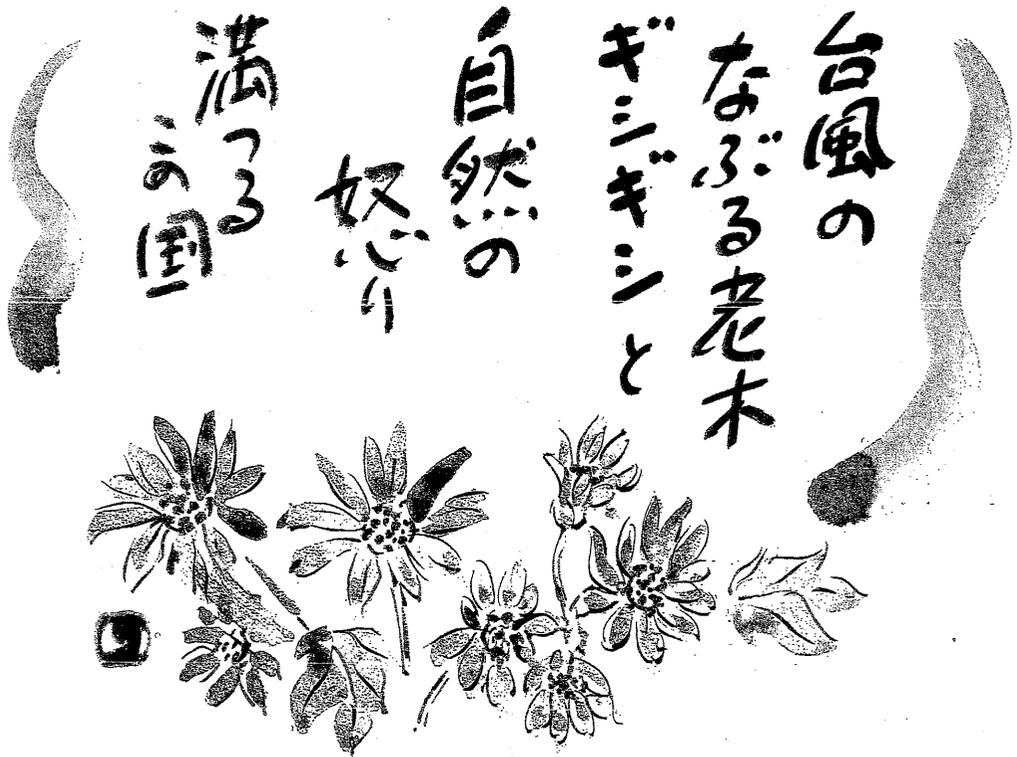
オリーブの樹

第108号

2011年11月20日

شجرة الزيتون

早期釈放！ 重刑策動をはね返し、重信さんを支えていこう！



目次

- P 2 9月10月の歌 重信房子
- P 3 独居より 重信房子
- P17 全共闘は闘うぞ！ 明大土曜会
- P21 「重信房子がいた時代」書評 小嵐九八郎
- P22 私の「重信房子のいた時代」 田崎哲史

重信房子さんを支える会

九月十月の歌

曼殊沙華群れ咲く小道辿りゆけば会いたい人に会えるかも知れず

言霊の地平線這う星月夜砂漠の民を語りしは君

足下に瀕死の銀ヤンマ止まりたり霜降暦の真近な獄に

神無月黄紋白蝶が低く飛び我れをいざなうまほらの道へ

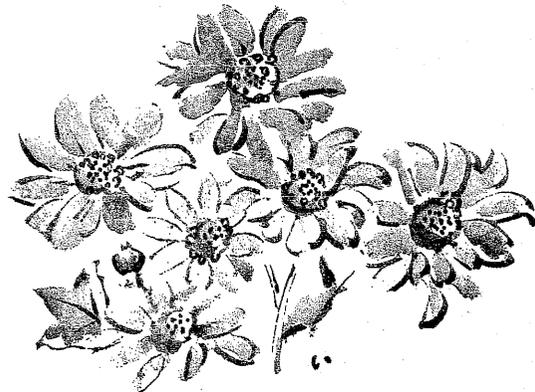
のけぞって笑いしあの日の喉仏意志の塊り君は呑んでた

吐られて真一文字の口元が歪みこぼれる涙の君は

おみならのルージュの口元笑みたたえ脱原発の不屈の行進

独房の追い詰められしこおるぎはさかしらな眼で我れを嗜いぬ

コスモスの咲き初む便りに我が胸は一面のコスモス風に揺れ咲く



独居より 9月9日~11日

「脱原発」と「格差」や「失業」が一つの変革として 世界の変革とつながっています

重信 房子

9月9日 晴天の青空。目の前の桜の繁みにも黄葉がちらほら見えます。長い蜘蛛の糸が葉の間にそよぎ、キラキラ光る朝です。八王子の山並みは何重にも奥行きのある黒い脈がつづいていて、晴の朝は気持が良い。

今日は夜8時に電力制限解除となる日。みんなの努力はあったとしても、暮らしにとって原発が廃止されてもやっていけることを示した夏でした。利権と金儲けの戦後自民党支配の要のような「原子力平和利用」は不要です。今日受け取った新聞にさっそく前原民主党政調会長のやりたい方針が、日本でなく、7日ワシントンでお披露目した様子です。日米同盟の中心の政策決定者と自慢したい、いつものぶち上げるやり方で、PKO参加五原則を見直して、集団攻撃に道をひらく考えと武器輸出三原則も見直して武器輸出も可能にする腹。下手に出て増税を狙う野田首相共々「自民党化」の道を、今の自民党より明瞭に打ち出しそうです。それに、今頃になって放射能の被曝量の広がり、量がどんどん拡大しつづけている事実があれこれ記事になっています。海中放射能も1.5京ベクレルで、東電発表の3倍（日本原子力研究開発機構まとめ）に増えています（京は兆の1万倍）。今日受け取った資料も多くの反原発の声や政策などが多いです。友人たちからの便りにも感謝。

9月10日 9月に入り台風が去って、また暑い日が戻ったような日差しと汗。

週末に読もうと決めていた「わが青春の国際学連」を一気に読みました。

著者の石井保男氏は1959年東大医学部卒業間近に、プントの創設メンバーでもあり、プラハの国際学連（IUS）に全学連代表として派遣され、以降は国際学連の副委員長など幹部として68年（チェコ・プラハへのソ連・ワルシャワ条約機構軍の占領直後）まで国際舞台で活躍した人です。50年代の「ハンガリー動乱」の評価をめぐって東西に分裂した国際学生運動の中で、日本全学連のみ「東側」のIUSに残り、60年安保を闘ったことで、全世界の「ゼンガクレン」の名が定着する中で、キューバでゲバラと会ったり、さまざまな歴史的な事件の中で闘っていきました。し

かし60年安保後プントは分裂解体し、「安保全学連」が崩れていく中で日共やソ連東欧の路線とも闘いつつ過ごしていた様子が理論的にも語られています。

はたと、私の思考が、71年秋から「連赤」の発覚その後のずっとつづく私自身の困難な時代と重なりました。あの時私も、「だから政治主義者はダメだ。人間性、倫理の欠けた革命は続かない。スターリン時代から同じ教訓をえていたのに。……あたりまえの仲間への思いやりもないのか……」と時には思ったこともありましたが、でも逆に今こそ自らが切り拓いて日本の仲間を励まさねば！と前に進めたのは、パレスチナの戦場と仲間がいたからです。「国内の基盤なしに国際戦線ではたたかえない」自明の現実の前で、「パレスチナ解放の闘いに拜跪してでも闘おう」とパーシム奥平とサラハ安田らと決めたことと重ねつつ読みました。私が第二次プントにいた頃、またはアラブに行く前にこうした先達の経験を学べればよかったと思いつつ、第一次プントの内実は第二次プントには継承されていないのだなと思いました。運動スタイルにおいて「街頭戦運動戦」を重視して闘う共通性と「国際主義」への志向はあったけれど、そんなことを思いつつ読みました。

9月11日 “9・11” 10年目。ブッシュ大統領の「これは戦争だ」と「反テロ戦争」の名で、世界を戦場へと占領した愚かな結果が今では歴然です。アラブ民衆の闘いは、カイロで、9日夜、イスラエル大使館を襲撃し、イスラエル国旗を下ろし、館内に入り、書類を窓からばらまいたりして、400人以上が警察・軍と衝突して負傷したとのこと。「反テロ戦争」への怒りが炸裂したよう。「暴力」を用いるか否かは別にして、イスラエルに対するアラブ民衆の気持を示しています。民衆の意志にひきずられてアメリカとの合意にもとづきムバラクを辞任、公判へと追い込みつつ、これからの生き残りをかけた軍はどう出るでしょう。膨大な米国の援助でコングロマット化した軍は若者たちと民衆を切り離そうとするでしょう。権利既得権を持ったまま、今の格差社会、貧困の改革はできなでしょう。闘う側の決して分裂しない相互支援共同の強化

がこれからますます問われそう。

パレスチナも「194番目の国連加盟」に向けて総会への提案を準備中です。シリアは武力反乱に武力弾圧しか策がとれず、アサド政権はきびしい局面の様子。自国民を弾圧すればするほど政権の正当性を失ってしまっています。米・仏政府や親イスラエル勢力は地域のサウジやヨルダン王政、親米勢力を動員して、シリア・アサド政権解体からイラン包囲によるイスラム反米勢力（ヒズブッラーなど）一掃の戦略を描いているようです。それは逆にかつての植民地支配が引いた国境線を越えた民衆の新しい反イスラエルの闘いに拡散しそうです。

9月12日 今日「中秋の名月」なのに月は全然見えません。ちょうど建物の真上で輝く位置みたいです。今日は新聞休刊日。昨夕は7時のニュースもなくなでしこ対中国の勝敗は不明のまま。「フォーリンアフェアーズ」反原発資料、地域アソシエーションなど資料やお便りありがとうございます。

点呼後、「11日編集室は反原発デモ参加、オリーブの樹発行は18日です」のデンボーでニンマリ。予定は11日だったので、わざわざ知らせてくれてありがとう。

告知放送で、新監獄法（刑事施設及び被収容者の処遇に関する法）と規則にもとづいて、9月12日から書籍の差し入れが次の通り制限されましたので、面会・手紙で伝えるようにとのこと。「①書籍1回の差し入れ（面会時または郵送）5冊までと制限 ②パンフについては合冊ないしは重ねた場合の厚さ3センチまでを書籍1冊分として扱う」ということです。これまでもだいたいその範囲で書籍パンフを受け取っているのですが、私にとってあまり問題ないですが、公判を抱えている人にとってはどうなのでしょう。

9月13日 今朝はミンミンゼミとツクツクボウシに起こされました。いい晴天です。

デジカメ歌人から「白露」の便り。ハツユキカズラの写真と共に藤原定家の和歌が添えられています。熊野奈良と古代の匂う町や村の台風の爪痕を案じておられます。お便りに触発され私も短歌をと思いました。切手のなでしこ花も心遣いありがとうございます。

野田内閣は鉢呂経済産業相を辞任させ、枝野前官房長官を起用。マスコミの上げ足取りも無神経な大臣も大本営発表のスポークスマンも既視感がっかり感ばかり。新しい国民の希望のヒントもない新内閣です。

昨日は休刊日でしたので今日12日夕刊と13日朝刊受取り。9・11の反原発の各地のデモの様子が出ています。もっとくわしく大きく取り扱ってほしい記事です。

9月14日 今日も真夏の暑さで、八王子も昨日に続いて30度をこえています。朝から蝉時雨、みんな蝉とつくつく法師。油蝉はいないのかな。そういえばここでは雀を見かけません。雀も少なくなっているのでしょうか。

朝採血。1週間もノイトロジン皮下注射をしたのだから大丈夫だと思っていたのですが、ペランダでの運動から入浴を終えたところで診察。洗面道具を脇に置いて医務室へ。担当医は「18.160で白血球は上がり好中球も80%まで上がりました。しかし血小板が副作用でずっと減っています。去年入所時29万でしたが、今回は7万8千。正常値は10~40万です。7万5千を切ると抗ガン剤治療も続けられない」とのこと。血小板は白血球・好中球のように注射で増やすことができず、緊急時には輸血しか方法はなく、それも効果は1週間とか短いとのこと。ずっと副作用で減少し続けていたとのこと。それでもまだ大丈夫なので、抗ガン剤治療第11クールを9月21日の連休明けから始めることを確認しました。抗ガン剤副作用は身体全体にいろいろと出てくるものです。

夕方、弁護士経由で高校の同窓会のお知らせ。友人たちを思いつつ思い出し笑いの高校時代です。

今日はバタバタして、今夕食後新聞を読みだしたら、西川さんが上告棄却されて、無期懲役確定との記事。「ダッカ事件」無罪主張は無視されて「日本赤軍罪」の重刑に結果しました。「ダッカ事件」の実践責任を認めた丸岡さんが西川冤罪を主張していたのに！ 予測したとはいえきびしい判決がまた出ました。

9月15日 今日は32度と夏の日。10時半から30分グラウンドに出ました。今日は秋より夏のような感じかと思はれました。みんな蝉もつくつく法師も鳴いています。気持ちいい暑さの中妻ら帽子にマスク、長袖シャツに運動靴で、グラウンドを8周して、芝にねころがって流れる雲と青い空を見上げたら、どこに「今」いるのかふと忘れそうな、ベカーの草原の気分。

9月16日 今日は「教育的処遇日」のため運動や業務などはなし。入浴のあと、髪が乾かないうちに「面

会！」の知らせ。姉夫婦の面会。予定していなかったのでバタバタしつつかけました。二人ともとても健康そうです。それにメイから頼まれた質問など慣れない伝言も姉が伝えてくれました。あつという間の20分でした。

夕方、MさんやKさん他からお便り感謝。Mさんからのお便りには、馳星周という作家のことが書かれていました。Mさんの手紙によると『……日本の同志たちは、何をしているのだろう。パレスチナに残った連中は、また戦闘訓練を続けているのか。房子の思いつきがなければ、おれもパレスチナに残り、パレスチナ人と共に闘っているはずだった。……日本を離れてパレスチナの地にたった重信房子は猛烈な勢いで働いている。……』と書かれていてびっくりしました。これまで話題になったことありましたっけ？ 2010年9月30日単行本出版されたようです。『こんなに勝手に実名使って書いてもええんかしら』と思いつつ読みました。ケイタイやメール通信なんて管理盗聴されて、非合法非公然活動には使えへんやろうかの疑問点、また男くさい小説ではありましたが、読みごたえのある作品でした」とのこと。ホントに。勝手に実名使ってええんやろうか？！

またMさんは、9・10の「パレスチナの農業と緑農ツアー講演会」に参加して、オリーブの木が象徴しているパレスチナを学んだことなどや、9・11反原発の様子、そして10月の第5回「反戦反貧困反差別共同行動 in 京都」は、「このままでええの?! 日本と世界」の集会名称から「変えよう! 日本と世界」に改称が呼びかけられているとのことも伝えてくれました。ありがとうございます！

「キタコブシ」148号も受け取りました。第四次再審請求の準備を始めているとのこと。将司さんも副作用に耐えつつガン治療を続けている様子。利明さん共々回復を念じ、こちらも治療にはげみます。Kさんよりいつも励ましと花の便り。ありがとうございます。

9月19日 3連休日の敬老の日。65歳以上が「敬老の範疇」に入るなら、自分も敬するばかりか敬される年齢だ！と改めて自覚しました。今日は祝日のため昼にドラ焼きが昼食時に供されて、おいしく食べました。休日で便りも届かず静かな一日。

9月20日 昨日とうって変わって雨で寒いくらいです。15日以来の今日の運動は中止で残念。朝、62信を発信。午後には「図書新聞」3031号、「救援」、

「解放」など受け取りました。「図書新聞」の目次の「主な書評」に「由井りょう子『重信房子のいた時代』小嵐九八郎」とあり、すぐ読みました。小嵐さんの「プロの書評」で本への逆説的な評価、「人間・重信房子が原点から描かれ膨大な説得力がある」とあります。嬉しい書評。このまま「オリーブの樹」にも転載してほしいです。小嵐さんも青いヘルメットでしゃかりきに闘っていた時代です。命を賭けた闘いと同志への慟哭を抑えた小嵐さんの短歌の数々を思い出しつつ読みました。夕方友人たちのお便り嬉しいです。その中に今年2回目のガン手術をしたTさんの毎日反戦・反原発デモ集会和請われてとびまわっている様子が淡々とした文に浮かびます。今年の秋の10・16の集いは2000人の参加をめざしているとのこと。2000人以上来ますよ！ 時代の反原発の流れが大きくあり、そこで寂聴さんも話をされるとのこと。「青空説法」で数千人集める人ですから。10・16始めて5周年です。成功を祈ります。

昨日は明治公園に入りきれないほど「さよなら原発集会」6万人も集まったようで、東京も関西も地方も、普通の人々のまっとうな「反原発」「脱原発」が広がってうれしいです。原子力は「平和利用」の名で核武装の条件体制をつくりあげているのは、50年代からの日本の支配層の野望であり、また世界の核開発の流れです。野田政権で原発再開稼働に動くのをなんとか止めたいものです。「土曜会」も職持って行ったでしょう。

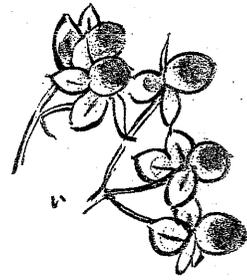
9月21日 朝から台風の影響で窓の外の桜の大木が大揺れです。雨も激しい。台風15号は名古屋を水びたしにして、首都圏に迫っているとのこと。そんな午前中に第11クルールの抗ガン剤治療に入ります。10時半から15時過ぎまで順調に点滴をすませたところです。ちょうどMA子さんから同志社のMさんが病死したこと、「お別れの会」の写真を送ってくださいました。MA子さんとは長いご無沙汰。私の逮捕時にはご迷惑をおかけしました。

夕食後に、Mさん、Tさんが送ってくださった資料（Tさん切手送ってくれてありがとうございます）や、「靖国・天皇制問題情報センター通信」、パンフやその他の資料受け取りました。それに「新・原詩人」37号。私の詩「風の共和国 1971年・ビューフオート城から」も載っていました。かつて1967年の「10・8」までは心を没入して毎日書いていた詩ですが、「10・8」からもう書かないことにしました。詩が

私の行為のカタルシスになって、闘いを溶解させるように思えたためです。行為を前向きに行動へと実存を尽くしたかったので断念しました。でも、「受刑処遇」で外界と閉ざされる中で、今では心を「没入せず」に「右腕」で書いている自分をもう一人の自分が見つめているように「客体」を描くしかないので。そして「客体」を通して心を表すような書き方。そんな思いで書きはじめた叙事詩です。点呼の後で大相撲中継の途中に「告知放送」が入りました。10月1日から売店が新しい業者になるため、売店の営業時間が午後1:00-5:00までで、規格・価格にも変更がありえるので、詳細はのちに知らせるとのことです。売店の時間変更は、家族などにそのことのみ知らせる場合、「発信枠外」でも発信可とのことでした。

パレスチナの「国連加盟」の動きが激しいようです。オバマ大統領は、国連総会で21日に演説する中で、パレスチナの国連加盟は「国家樹立の道ではない」と「イスラエルとの和平再開」を呼びかけるとのこと。1947年にイスラエルに有利な2国家設立の分割決議をしてパレスチナを「国家」としたことは、都合よく忘れて、パレスチナ全土をイスラエルのものにと建国以来画策してきた米や英は、あれこれの理由でまた騒ぎ立てています。日本も同調しつつ棄権票くらいでしょう。米の拒否権の不正義が世界に示されるでしょう。大国支配の国連における「拒否権」などの特権を廃止しない限り、大多数の国々が「新しい国連」をつくる時代もくるかもしれません。富む収奪国だけに有利な「国際秩序」はもう破綻しているのはギリシア問題でもあきらかなのに。

9月22日 台風去って彼岸日和の朝です。ペランダに出ると、プランターに赤い鶏頭の花と黄色の鶏頭の花。小さい苗が行儀よく並んでいて気持ちさわやかです。でも体調は副作用で吐き気。これから数日は続きそうです。深呼吸しつつ久しぶりにゆっくりペランダを歩きました。今日は回覧で「9/30をもって



夏曆は終り」の通知が届きました。拭身、団扇使用、殺虫剤貸与、冷や麦茶給与、運動時の麦わら帽子、戸外運動時のタオル携行の終了。9/30で夏パジャマと冬パジャマの交換、官服半袖から長袖に交換、毛布1枚貸与などです。台風一過の秋空はもう暑さを感じさせません。暑いのが好きな私は、八王子のしもやけの寒さにもう戦々恐々です。

お便りありがとうございます。9・19は明治公園から渋谷へのコースでデモをした様子。週刊朝日に鉢呂元経産相の話。「経産相にはエネルギー対策の方向を決める『総合資源エネルギー調査会』という会議がある。私が大臣着任当時内定していた委員は15人中12人が原発推進派で結論ありきの人事でした。しかし半分は批判派にしなければ国民の理解は得られない。私は人選に着手し9月にも発表する予定でした。経産省にしてみれば、私が煙たかったかもしれません」原発推進派の隠然とした策動はこれからもっとマスコミや検・警権力を使ってくるでしょう。

9月26日 3連休は体調が悪く、吐き気で、ベッドに寝て過ごしました。昨日午後あたりから食べられるようになり、今日連休明けは平常に戻りました。午後「オリーブの樹」107号届きました。短歌選んでくれてありがとうございます。また丸岡さんの妹さんのお手紙、心配くださった読者のみなさんへの妹さんの気持ちもあり、是非お伝えしたいと思いました。表紙の蝉の絵、なんて上手なんでしょう。夜薄い光(滅灯下)で、動いているみたいに、今まさに成虫ならんとむさぼり喰らう姿でした！ありがとうございます。これからゆっくり読みます。

またMさんからは、祝バースデーのお便り。ありがとうございます。それから104号で書いた岩本双葉町長のこと、鎌田慧さんが、「事故後テーブルをたたいて怒っていたと聞きますが、東電に怒っていたのか、自分に怒っていたのか……」と「週刊金曜日」862号で語っているからと送っていただきました。岩本さんは昔は戦闘的な反原発論者。出稼ぎをなくしたいと奮闘していた67年の姿が浮かびます。また夏に岩本さんが亡くなられたのを新聞計報欄で読みました。他手紙友人たちありがとうございます。

連休中の新聞は、パレスチナ自治政府のアッバス大統領が国連総会が国連総会で、国連加盟申請の写しを掲げて演説し、各国代表は総立ちで盛大な拍手の記事。それでも米はイスラエル側に立つことは歴然ですが、不当な米・イスラエルの姿を世界に示したでしょう。

26日から安保理協議を始めるとのこと。議長国レバノンや中国、ロシア、ブラジル、南ア、インドは支持しているけれど、アメリカ・EU各国は反対や棄権を他の国々にも経済援助をちらつかせて強いています。「拒否権」を使わず、米政府は葬りたいところでしょう。イスラエルは増長して占領を増やし入植地を増やし、暴力的、財政的制裁をはじめようとしています。でもパレスチナ側は何よりもファタハやハマスが統一した力で、新しい闘い方で建国の実体を育て、賛成した国々と(米、EU仲介でなく)公正を担保する在り方をつくりだしてほしいです。

9月27日 少し肌寒いけどまだ朝、蝉が鳴いています。昼食時にハウスの「おいしいビタミン・オレンジ味」60gの小さいゼリーがつかってきました。「お誕生日の特別のもの、しっかりこれからもがんばって病気を治すように」と言われました。午後は「彼岸法会」、2-3時。読経の中まづ順番に焼香。その後導師が「彼岸」の意味や意義を語っていただきましたがよく聞かえず残念。両親戦友友人たち彼岸の人たちを思い出しながら静かな一時を過ごしました。

夕方にはMさんTさんが送ってくださった資料・コピーやピラなど、ピラにも書き込みで実感的にイメージできます。ありがとうございます。宮崎先生からも「オリーブの樹」届いたと感想。過分な評価恐縮しています。

また大学の先輩Tさん、しばらくご無沙汰の忙しい最中、その間のことも臨場感一杯に書いてくださって感謝！ またTさんは「9条改憲阻止の会」でこの間の6・11や6・19の脱原発にもかかわっておられ、9・11経産省包囲の中で我々が「オリーブの樹」編集室スタッフを見つけてパチリと撮った写真も送ってくれました！ありがとうございます。こんなふうなレポートは大歓迎です。

9月28日 今日は秋晴れ快晴！今日は66歳の誕生日です。昨日にも友人から祝バースデーのお便り。

11時過ぎ診察に呼ばれ、第11クール中なので副作用の状態を聞かれました。吐き気も止まり食欲もあり元気と伝えました。10月12日に採血検査して腫瘍マーカー、白血球、血小板などをチェックし、OKなら第12クールを10月19日から始めることを確認しました。

午後はTVもコーラスもあったのですが、ちょうどメイの面会と重なったので辞退。メイは河合の授業を

終えて駆けつけてくれました。コスモスの小さい花のブーケをアクリル板越しに示しながら「ハッピーバースデー！」とニコニコ。彼女はちょうど京都で「J・R・Aのドキュメンタリー」の仕事をし、その後同志社大の学位授与卒業式をすませてきたと元気そうです。奨学金返済も大変でしょうけれど。京都ではHさんがアレンジしてくれて、「さわさわ」の人たちにも会えたり、みんなのおかげで、とつてもよくしてもらって、仕事も卒院も自分の心に残るものになったと喜んでいました。まだ話し足りないけど時間です。コスモスの花をふりふり「またね！」と別れました。

房に戻るとMさんや友人たちからのお便り。Tさんからは祝誕生日の便りと共に今も乞われて地域でリーダーシップをとって活動している様子。

みどり一家も祝バースデー、手紙や伝言、筆無精の友人の伝言も届いた明るいバースデーです。多謝。

獄中の治療とはいえ、今のところ私は順調に治療しています。でも「冤罪」や「罪の償い」に向き合いながら、多くの受刑者が病を獄中で闘ってきた歴史の上に、自分が居るのだと実感しています。丸岡さんやよど号の田中さん、北海道の磯江さん、その他多くの「受刑者」が人権を無視されたり、検察の報復的な「執行停止無視」の条件の中で闘病し、告発し、無念の思いを抱き犠牲を強いられてきています。そうした獄中医療の改善が、今も闘いとらなければならないことを改めて自覚し、「生き抜くこと」によって連帯を！と思わずにはいられません。みんなの支えや励ましの中、絆に結ばれた友情、信頼が私の強い意志を育てています。誕生日はみんなに感謝する日です。ありがとうございます。

9月29日 今日も快晴。でももう肌寒い朝。今日は八王子に入所して1年目です。それに運動場に出られる日。体操日和！赤とんぼが10匹以上遊んでいてじみ蝶も。紋白蝶もふわふわ。芝はきれいに刈られていて、歩きだすととききちバツが1匹とびたちました。青一色の空。ウォーキング1000歩。風もなく歩いているうちに汗びっしょり。柔軟・真向法のあとグラウンド1周。気持ちのよい日です。萩の花も咲きだし、ピラカンサに似た実も赤く色づきはじまりました。

夕方はMさんのお便り。ひきつづいてありがとうございます。家族で明日香の欄田の有休田オーナーになって、彼岸花まさかりの中に出かけたり、子供たちの集団登校の様子や学校支援ボランティアなど、日常生活の中での活動の様子を知らせてくださって

オリーブの樹 第108号

て、子供から世界が広がりが生まれていると共感しつつ読みました。Iさん祝バースデープレゼントの靴下もありがとうございます。ここは「外部のものには不許可」で受け取れないけれど、メイか姉にあげるかな、それとも何年先か私のはけるまでとっておこう！

9月30日 秋晴れ続き。昨日はつくつく法師が鳴いていましたが、今日はもう蝉の声は途絶えました。

夕方、Y先生1ヵ月の台北、北京、ソウルでの日本映画の講義を終えて帰国されたとお便り。10月は山形のドキュメンタリー映画祭がキューバの特集するので向かうとのこと。

またYさんより9・19「さよなら原発1000万人アクション」のレポート。写真付きでくわしく送っていただきました。航空写真で見るとびっちり明治公園のうちも外側も！6万人以上?!それに8月の土曜会で話合ったように集会前の「明大、日大、芝工大の3大学共闘の小集会の実況中継は、楽しくまた笑えて真剣な様子！R介の司会で、元全共闘の発言や「異議なし！」がまたいい！Yさんありがとう。集会もデモの様子もワクワク読んでます。

宮崎先生お便り感謝、本楽しみにしています。10月は86歳ですね。現役バリバリ、これから京都大阪講演とのこと、どうぞ季節の変わり目、お気をつけてください。Uさん祝バースデーありがとうございます。

今日は1年ぶりに「視察委員会」発行の「子安町通信」受け取りました。通巻7号、内容は(1)に視察委の説明(5人の外部の市民で新法にもとついて構成などの説明)(2)で協力事情(面接提案箱への意見を！と)(3)で、10月に入って全員アンケートを行うので協力を(被收容休業者、懲役作業員、職員全員)(4)次号は10月か11月頃に、今年4月に所長宛に行った意見提起に対する回答や措置の紹介とのこと。去年入所時に受け取って以来ですが、もっと「子安町通信」を発行してほしいところです。

10月1日 ああ今日もさわやかな秋晴れ。4階の目の前の桜葉の間を赤とんぼがツツツと飛んでいます。私も自由ならどんなにいいでしょう!!

10月3日 もうすっかり夏は去って、寒がりの私には朝夜は寒い！宮崎先生ありがとうございます。またずっと9/27-9/30の毎日のハガキの便りMさんありがとう！またTMさん、秋分の観山を臨む秋空の写真とお便り感謝。Yさんのお便り。22日西川さ

んに面会できたんですね。「受刑処遇」になったら会えませんね。

10月5日 昨日の秋晴れとうってかわった肌寒い小雨です。明日は運動会の予定なのですが……。

朝食後に引っ越しの指示。「寒くなるので南側の前に居た病室に移ります。荷物をまとめておくように」とのこと。この房で手足しもやけになったので、南側への引っ越しはありがたい。あわてて全私物の荷造り。と言っても15分ほどですむような整理です。この北向きからは西空のサンセットが美しい。高尾に連なる山脈が見物ですが、冬は冷蔵庫みたいに寒いのです。9時頃台車を引いて荷物を持って引っ越し。南向きの運動場が見え、春に桜並木の美しかった房です。床を拭いたりして荷物を配置、布団ベッドメイクして引っ越し終了。窓の外には春に見事だった枝垂れ桜の木は深緑に繁ったまま。並んでいる大木に赤い実がたくさんついています。何という木だろう。

昼食前11時過ぎ診察。副作用などを聞かれ、CVポートのフラッシュ(洗浄)です。食欲もあり順調と伝えました。

午後雑誌やパンフ資料受け取りました。それから夕方にはYさんや姉やお便りありがとう。Yさん、9・19の6万人明治公園で、やっぱり「明大土曜会」の轍を見つけて、由井さんに会うことができたとのこと。以来交流し、Yさんはヒロシマの被爆体験の語り部をしておられるのですが、機会があったら「土曜会」での話もとの声があるとかうれしい交流です。また今日受け取った資料「展望」9月号の中に、Yさんの講演から加筆寄稿した「戦後の平和運動——主として原水禁運動について」の載っているもの送っていただきました。

戦後のコミンフォルムやソ連の「権威」に拠っていた日本共産党の大量運動への強引な党方針の押しつけ、ソ連の核実験に抗議する広島・長崎・沖縄・静岡(ビキニ島水爆実験で漁船の被爆)らの主張に、ソ連の核実験擁護する日共路線との対立。「核と人類は共存できない」と「被団協」会長森瀧市郎が日共の反対にもかかわらず再任されていくなど、平和運動、原水禁、原水協の分裂の様子などわかりやすく記されてきます。

「党は人民よりえらい」「官僚は国民よりえらい」「政治家は国民よりえらい」、運動や制度政策は結局「人民」「国民」を主体としない「上から目線」で、この国はまだ「主権在民」も「民主主義」も実体ないままです。アラブからの欧州米国への抗議変革は日本各地の

「9・19」とつながりますように！

10月6日 秋日和。昨日点呼後、1日降った雨のため「運動会はグラウンド不良のため、10月19日に延期します」とお知らせが伝えられました。それなのに今日は良い天気です。ベランダで運動したらまだ汗をかき気温です。

午後、処遇課より、処遇について、「第4類区分の再確認」がありました。4月に正式に第5類から第4類になりました。半年毎にこの「優遇区分」が評価されます。第3類では面会3回、自弁の嗜好品1ヶ月1回許可されるとのこと(ちなみに第2類は面会5回、発信7回、嗜好品2回。第1類は面会随時、時間も通常の2倍、発信も随時などと、受刑者の矯正状況で優遇される仕組み)。でも病気の受刑者は丸岡さんがそうでしたが、何十年経っても「第4類」らしいです。

午後にはTVバラエティ番組。資料新聞、Tさんからのもの、TさんYさんからのものなど多数。またお便りもMさん他ありがとうございます。

10月7日 10月5日だけが雨で今日も秋晴れ。この頃は毎年青空の秋晴れ続きで過ごしやすい時です。

朝に17日に面会に来てくれる旧友たちの申請(面会時間延長とペンノート携行)しました。11時姉の面会。来週と思っていたのですが、早めに来てくれたようです。あれも話そうこれもと、面会室へ向かう道の窓の外のキンモクセイの大木が花をまっさかりに、香りも建物の中まで！この秋はキンモクセイと萩が去年もうれしい季節でした。面会室で姉が元気そう。「二人でたくさん話せるように」と夫はすぐそこで待っていてくれるようです。いつも心遣いして下さる義兄です。面会のアレンジのこと、メイの卒院式の話。ちょっとしか話してないうちにもう時間！でも昔と同じように姉と話せて、キンモクセイの匂いを嗅ぎながら気持ちよく房へと戻りました。

新聞ではユネスコ執行委員会が「パレスチナ国家の正式加盟」を総会に勧告したとの記事。「拒否権」の通用しないところで米国は猛反発「きわめて異様なやり方だ、地位を決めるのはユネスコのような補助機関でなく、国連本部でなければならない」とクリントン国務長官。アラブ・アフリカ諸国中心にパレスチナ加盟申請を20ヵ国が共同提案し、賛成40、反対4、棄権14で総会への勧告を圧倒的多数で決定したとのこと。実りのないムダな時間を使う「カルテット」米国主導の「イスラエルとの直接交渉」の子供だましや、

安保理の「米拒否権」をバックとしたパレスチナ加盟審議の長丁場よりはるかに世界の意志を示すものです。中東の変革はチュニジアでもエジプトでも次の段階を迎えています。戦略的に国民の意志を実現する方向にどう進められるでしょうか。欧米各国の思惑に飲み込まれず、軍に巻き返しを許さずに。

シリアに対しては「弾圧をやめなければ『対抗措置』を認める決議案」を仏・独などが安保理に提出して米国などが賛成に回ったが、ロシアと中国が拒否権行使して廃案にしたとのこと。リビアの時に「市民の保護」を理由に軍事行動を認めたことが、カダフィ政権打倒を目的とした軍事作戦となったことを批判し、「内政不干渉」を理由に反対したものです。実際「市民の保護」の名で、気に入らない政権打倒をくり返してきた欧米の動きは、トルコを引き込み、レバノン親欧米のハリリの息子らを巻き込んで、反体制変革の汎アラブの波を利用し新しい中東支配を企てています。反帝勢力はアサド政権に代わるシリア反帝勢力がない分、宗派的対立の流れをくい止めつつ、反動化するアサド政権の暴力に是々非々で対応しているようです。ヒズブッラー、PFLP、レバノン共産党、ナセリスト、ドルーズ。友人たちの困難な状況、レバノン内戦に転化させないようにと動いていることでしょうか。一方、変革の行動はプーメランのごとく格差や失業に抗議して全国各地に広がり続けています。やっど！

今日の新聞は小沢公判開始の記事が一面に出ています。秘書らの「有罪判決」のひどさ。「やっだにちがいない」という思い込みの上で、推察推測を重ねて有罪を描いた私の有罪判決の構図と同じ。裁判所は、検察に「お墨付き」を与える機関でしかない姿をまた証明しています。小沢公判は当時政権交代間近の首相候補にあたる野党第一党党首を引きずり下ろし、とにかく公判をこうして続けマスコミで叩くことによって民主党の要を破壊しているのは、今も有効に作用しています。小沢氏への権威主義的手法に批判はあるとしても、これは国家権力の恣意的政治の結果起こったといえるでしょう。

「選択」「レコンキスタ」「人民新聞」その他感謝。Mさんは子供の運動会のあとも多忙で楽しそうな文化活動続きですね。Nさん面会のお便り諒解。10月17日待っています。

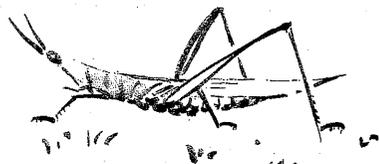
10月8日 今日から3連休です。自分で決めた宿題をこなせず、この3連休でやろうと思っています。短歌も少し。やっぱり今日は「10・8」！あの67年

と同じように晴れた青空。あの時に何千と立ち上がった学生たち。68年には佐世保や王子新宿を埋め尽くした若者たちの何人もが「脱原発」の今を集い行進していると思います。明大の我が旧友たちのように。米国の抗議デモに「米国民の不満の表れ」とオバマ大統領。米国の2大政党が民意を受け止めない構造が「アフガニスタンではなく、ウォール街を占拠せよ」の示されています。お金の価値をすべてに優先する欧米基準欧米中心資本主義が、今みずからの足下の国民を苦しめた結果、怒りの変革に立ち往生しています。EUだってあんな格差のある国々が一つになるなんてはじめから破綻はわかっていたこと。「EUの最低の経済水準国にEUを平準化する以外うまくいかない」と当初から在欧の友人たちが話していた80年代を思い出しつつ、日本も「暮らし方」から問われ、「脱原発」と「格差」や「失業」が一つの変革として世界の変革とつながっています。空を見上げて星を探して、76年10月に戦死した日高敏彦さん、91年10月に病死された庄司宏弁護士に敬礼。

10月11日 今日新聞休刊日。でも本や資料手紙などたくさん受け取って一日中読んで夜になりました。由井さんの新しい本「石巻赤十字病院の100日間」「その時地域病院は最前列の野戦病院と化した」という帯に書かれているように、3・11からの医師・看護師・職員らのきびしい震災の闘いのエピソードの記録、今読み続けているところです。

Kさんげんのしょうこの花の写真ありがとう!! 幼い頃早くに覚えた花の名です。父が無銭旅行の少年時代、赤痢のようにきびしい病状の時、道っていつげんのしょうこを食べまくって何とかなおしたというエピソードと共に、この可憐な花の名を心に刻みました。寂しくなると夫が夢に訪ねてくるなんて、いつまでも妻を恋人のように愛しているからですね!! どうぞ心を思いのままにお過ごしください。

姉からもMさんからも。Uさん他お便りありがとうございます! みんなの便りがいつも私に創造力と若さ! を育ててくれています。



10月12日 窓の外の桜並木の黄葉がずいぶん散っています。今日もベランダで運動して汗をかきました。朝採血したので昼食前に診察室に呼ばれました。担当医が検査の結果をしらせてくれました(腫瘍マーカーの数値はまだ未把握とのこと)。白血球の数値が3170で、好中球も44%とよくなっているが、5日間のノイトロジン皮下注射を明日から行っていくとのこと。そして来週10/18に再度血液検査をしてOKなら、20日から第12クルの治療を行うことになりました。19日は延期された運動会なので、20日にしてくれたものです。

また軽い肝機能障害は続いていて、抗ガン剤の影響もあるだろうとのこと。現在の治療を続けつつ、「休業」なども考えていくが、現在のオキサリプラチンの治療は効いているので、この「ゼロックス療法」をできるだけ長く続けたいと話をされていました。他の選択肢がたくさんあるわけではないためとのこと。

デジカメ歌人より「寒露」の節気の歌と共に、季節を違えて観山に臨む川筋に映っていた桜の花の写真。清楚で涼しげですね。四首添えられていてどれもいいですね。一首紹介。“夢中の掴み損ねた紐のごと読みかけの本葉が垂れている”。Mさん、来年の劇のテーマが決まって芝居の台本作りにとりかかったとのこと。早くも着想し(韓国映画の「ハーモニー」、慰問に来た合唱団に感動して合唱団をつくる女子刑務所の話ですって)、チャレンジ!

10月13日 今朝、「視察委員会」からのアンケートに記入して提出しました。医療の「治療では満足」に○印ですが、何よりも病院でもやけになる冬の防寒体制(定点観測4度以下になると暖房1時間。でも全然暖まらない点や防寒衣服を着れるように。今はパジャマの上にカーディガンのみ)の改善、それに歯科の他の刑務所並みの「義歯自費治療」の許可(ここでは治療できない)などを記しました。

新聞にはドイツ・エジプトの仲介で2006年以来パレスチナ側に拘束されていたイスラエル兵1人と1000人のパレスチナ人捕囚の交換解放で合意したとの記事。国際的にはパレスチナ国連加盟問題・国内的にも不当な入植地拡大の緊張とパレスチナ人弾圧に加えてイスラエル市民の数十万の抗議デモなどでイスラエル・ネタニヤフ政権が妥協を強いられた結果でしょう。ハマスは一貫して原則を変えずに交渉しイスラエルが拒否していたのですから。「受刑者は釈放後は対イ

スラエル闘争に戻る」とハマスのリーダー・ミシャール氏が発言しているように。

長丁場の国連安保理の「パレスチナ国連加盟」の審議は米国が拒否権を発動しなくてもすむよう、反対票集めにやっきの様子。どちらにしてもパレスチナの根本問題、被占領地の返還、入植地撤去、パレスチナ難民の帰還の権利の実行が公正に語られる場はまだ作られていません。それにパレスチナ全体を代表するPLOが74年に国連オブザーバー資格を得てからPLO(パレスチナ全体の「唯一合法的代表」)を形骸化させてきたのは、「オスロ合意」に乗ったアラファトグループです。難民問題ごとに48年以来の難民に対する帰還の権利などで、PFLP、ファタハ内でも「オスロ合意反対」、PLO政治局長カドゥーミ氏らまで大勢いたのです。そしてPA(パレスチナ自治政府)がパレスチナ人を代表するような実体づくりを行って来ました。これは米・イスラエルにも有利な「パレスチナ人にパレスチナの要求を下げさせて治めさせる」目論見もありました。アッバスはPLO議長でもありPA大統領ながら、PAの代表としてしか、それすらも役割を果たしていません。「PLOが唯一合法的なパレスチナ人を代表する」とPAの二重構造の変革、民主化はPFLPをはじめ提起されつつ、PLOに加盟していなかったハマスの登場でそのままです。ハマスの含む各地の難民を代表するPLOの再興の中で、PAも役割をきちんと定める公正化が問われています。足下で自派の利権にしがみつて米欧だけのアッバスらの「やりくり政治」はパレスチナの大義をさらに損なうでしょう。

Nさんお便りありがとうございます! 10・16ですね! 成功を! 天気だけが気になります。姉から関西の友人からの写真も今日入手。みんなのスナップいい顔、ありがとうございます。Mさんパードウォッチングや登山の子供たちとの姿と想像し、この八王子の四十雀やオナガ、名の知らない野鳥に見とれているところです。

今日は「救援」で読んだ公判日程によると泉水さんの「国賠訴訟」が岐阜で行われているはず。どうなつたでしょう。

10月14日 秋晴れ。コスモスが美しい時でしょう。吾亦紅も一面の野に咲いているのでしょうか。旧友の「イコールの関係が好き吾亦紅」の秀句が深い含蓄をもってよみがえります。Mさんの日々の便りに励まされています。

10月17日 暖かく良い気持の秋の日。今日午後、うれしい旧友たちの面会3人! MさんYさんNさんです。3人とも東拘以来1年数ヶ月ぶりです。いつもの支援やお便りに感謝してメイの友人のMさんとはメイとの仕事のことなどドキュメンタリー作りの話をまず早口にやり取り。それからN和尚には万一、丸岡さんの教訓から、ここを出て最初の夜の場所がなくて大変だったと聞いたので、「和尚さん、その時にはお寺確保しといてね!」と言うと、「何言いだすんだ! 元気で出て来るって言ったでしょう!」と呵られつつ、「もちろん土曜会も批判大会やるの手をぐすねひいて待つてからかならず出ると約束してます。でも万じゃなく億分の1でも、何かあった時のために……」。N和尚は全否定しつつワイワイ。Yさんにはいつもプロフェッショナルな「土曜会レポート」や「9・19レポート」のお礼。話があちこち飛びながら3人と私で30分。友情に助けられて元気な私は「病状は? 副作用は?」と聞かれて、「あ、忘れてた!」と、最後にちょこつと説明。なごりおしい30分、ありがとう!

房に戻って、宮崎先生、Mさんなど楽しいお便りありがとうございます。

10月18日 朝採血。OKなら19日から第12クルが始まります。資料や本などたくさん交付されました。「フォーリンアフェアーズ」10月号や「裁判員制度はいらない」「地域アソシエ」他「パレスチナオーブ刈り連帯援農報告会」のお知らせも。「救援」やお便りも感謝。由井さんからは「石巻赤十字病院の100日間」出版のあとちょっと息抜きで京都への落ちついたお便り。帰りにYさんと反核語り部ポスターを駅で見かけて伝えてくれました。Mさんの今日のお便りは13日岐阜の国賠訴訟、泉水さんと共同訴訟の原告として裁判に出席されたこと、その仲間たちや裁判後の記者会見をして、その日のうちに自宅に戻ったということ伝えてくれました。みんながんばってるなあ……と励まされます。

10月19日 今日運動会。昨日の晴から今日は曇りで少し寒いけど、窓から見える南の運動場には万国旗、本部テント、入場門、石灰の白い線も引かれてばっちり準備完了です。12時過ぎから出動14名! すでに男性たちは赤組白組緑組に分かれてトラックを囲んで座り、男性患者も着席しています。女区の指定席に運動参加7名と見学組7名着席。すぐにお弁当、おかし、お茶にアクエリアスのドリンクが配られ食べ

はじめました。おしゃべりしながらパクパク。チキンソテーとトマトソース、かぼちゃと小豆の甘煮、きんぴらと桃の缶詰。それにおかし類はチップスとチョコと小さいパームクーヘン。一年で一番楽しい受刑者たちの活躍の場。私は見学ですが大声で応援。女区は団体で得点を競うのには参加しませんが、7人の参加者がボール蹴り、風船割りなど3種目に出場。1位はシャンプー、2位はノート、3位はカイロ1ヶ、参加賞はエンピツです。みんなでピリや負けそうになるチームを競技ごと声をはりあげて女区も応援。女区の前に来ると走りながら手を振ったり男性軍も愛嬌があります。リレーの先頭を走って女区で手を振っているうちにこけてしまっただけでみんな大笑いで「がんばれ！」と拍手。そんな楽しい運動会は3時15分ごろ終わりました。みんな「楽しかったね！」とワイワイ。食べきれないおかしは夜9時まで食べていいとのこと。房に戻るとメイからの便り。パレスチナ映画祭がカナダのトロントであり、「革命の子供たち」の上映で招待され戻ったとのこと。そこでペイルートの大学時代の何人もの友人たちとも再会、知り合いとも会えて楽しかったと。筆無精のメイの久しぶりの便り。

それにMさんが早くも10・16の京都行動を伝えてくれました！瀬戸内さん、ドイツの緑の党副代表、鎌田慧さんはじめ闘争現場報告もすばらしい内容だったとのこと。瀬戸内さんが若々しいのにびっくりしたとのこと。“若者は恋と革命だ”と挑発してた様子。用事でデモには参加できなかったけど、IさんMさんご夫妻の「さわさわ」仲間をお願いしておいたとのこと。きっと去年のように女性旗手団！ですね。

外界で若い人からかつての安保、全共闘世代とこぞって3・11以降より多くの人々が変革を切実に求めている姿が、友人たちの便りや資料から伝わります。連帯!!

10月20日 今日第12クルールの「XELOX療法」の始まりの日。10時半診察室へ。担当医から18日の血液検査は合格。血小板も10万を越えているので大丈夫ですと言われ、すぐに点滴の針を右肋骨下のCVポートに刺して開始。そのうえで10月12日採血検査・第11クルールの腫瘍マーカーの数値を聞きました。CEAは8.6(前回6.9)、CA19-9は80.4(前回54.9)でした。抗ガン剤治療を2009年手術後すぐ始めてから今までで一番正常値に近づいた9月よりCEAが少し上がってしまいました。それでも足ぶみ状態で気にしなくてよいとのこと。その後房に戻って点滴を続け

午後2時20分に終了。副作用の絞扼感症状はなくて、手足のしびれと涙目くらいで楽だったのですが夕方から吐き気。抗ガン剤ゼローダの服用で少し頭痛とほてり。いつも点滴と口径抗ガン剤クルールの始まり数日は少し辛いです。でもこの「XELOX療法」を始めた去年から今年冬のしんどさほどではありません。

午後購入した「アラブ革命の衝撃」などが届き、友人たちからのお便り・カンパもありありがとうございます。Mさんからは地元奈良地裁で開かれた「在特会」の差別発言行為に対する部落解放同盟奈良県連からの民事訴訟傍聴とその後の集いに参加した様子。Uさんからは10・15京都のシンポジウム250人満席だったと、10・16は1000人集まって、福島のお母さん、ドイツ緑の党、寂庵さんと女性が力強く元気明らかな発言、最後のインターの歌はまったく不評だったとのこと。ギリシアでは10万人を越すゼネスト、アメリカもヨーロッパも貧しい者はますます生きられない世界。アラブも日本も。これまで世界は公正だったことはないし、今も不条理な世界の極みの歴史の中にあるようです。だからこそ変革を。

10月21日 今日は副作用で吐き気もあり頭痛も。ベランダでの運動はやめようかと思ったのですが、空気を吸ってラジオ体操くらいしよう、明日土日は運動ないしとベランダへ。ゆっくり深呼吸を始めたところでツーと何かが運動靴の上に降りました。「あ！ギンヤンマ！」。なにか訪ねてきたように大きなギンヤンマが！手にとると手を動かしながらもう臨終の状態です。緑色の腹部の基部は鮮やかな青色、羽根は大きくふるえています。静かにケイトウの花の間に置いてやりました。もう寒さが始まったのにまだとんぼが居たなんて。

房に戻って受け取った新聞にはリビアのカダフィの死亡が一面に出ています。かつては英雄でした。69年王制打倒クーデター、石油の国有化、次々と反帝の先頭を走り、「アラブ統一」やパレスチナ支援にも貢献したのは70年代です。80年アフガニスタンにソ連が侵攻し、レーガンの反共テロ戦争が始まると、カダフィの住居も空爆され命拾いしました。あのころからアメリカや仏への報復に燃え、国内・国際的にも無原則な行動や要求で友軍と仲たがいもしばしば。69年の革命時から夢だった「アフリカをUSAにする」(ユナイテッドステーツオブアフリカ)に軸足を移し、ソ連東欧崩壊を経て、権力の延命のため、かつての同志たちの意見や反対を排して親族支配になっていきまし

た。富の分配も恣意的なうえに米欧との「和解」の無原則なやり方は友好的な勢力とも冷却し、国内不満もかかえ、力で抑圧する方途しか持ちませんでした。結局そこから軍事的にはNATO軍の介入とNATO軍によるカダフィ打倒に結果しました。アメリカは3月からトマホークで介入し、4月以降も7725回空爆したとのこと。リビア人の物質力で倒れたわけではありませんが、リビア人の意志を抑圧したため孤立し敗れました。これからは米欧は「国民を守る」という口実で自分たちの意に沿わない「独裁者」や権力を軍事制圧することでしょう。もちろんカダフィ権力がリビア民衆の要求や考えと一致していれば、暴力的対決にはならなかったのですけれど。再び植民地支配にやらぬよう、欧米の利権の側に立たないリビア人の政権がうまれることを願うばかりです。チュニス、エジプトの動向も影響するでしょう。

Kさんから秋の野の花のドライフラワーの作品の写真。自然の色と風情のままです。感謝。心が落ちつきます。

10月24日 週末土日は副作用でずっと吐き気。ベッドで過ごし、詩も詠めずです。今日もまだ吐き気。でも午前中・午後とたくさんの資料の交付を受けて読んでいるうちに楽になってきました。お便り友人たちありがとうございます。花の本やダウンロード資料やメイからの写真なども届きました。今日は防災・地震火災訓練の日です。14時「訓練、訓練。地震発生！係の指示に従って避難してください！」の合図で防空ズキンズボンと風を被ってベッドの下へ。2分後で解除。患者はそれだけですが、他の人たちは避難などさらに行っていました。今日は雨のためベランダ運動もありません。

10月25日 今日からだいぶ副作用もおさまったみたい。昼食を食べたけど吐き気がなくホッとしました。それでも今日のTV観賞は不参加としました。体調の悪いときは寝ても寝てもよく眠れるものです。Mさんの心の伝わるお便り感謝。姉から写真便り。Mさんの句いい句です。“奈良の秋街に僧衣がよく似合う”“空渡り遺骨帰るや秋の夜”(この句は丸岡さんのペイルート納骨の句)。目の前の大木の赤い実は飯桐または南天桐とわかりました。南天の実のように葉の少なくなった枝に残り、青い空に似合っています。

10月26日 今日の晴天は10時半から運動場へ。



少し冷たい風に桜の紅葉黄葉が舞っていて、陽当たりにはタンポポがいくつも咲いています。気持よくウォーキング。房に戻って診察。Dr.から副作用の状態を聞かれました。今日もう吐き気もなく元気です。11月に血液検査をして次の第13クルールに入る予定です。

夕方M夫妻からのお便りに10・16の集いのこと、「さわさわ」の旗を掲げてのデモの様子、うれしく拝見。それと10月2日の「おはよう日本」のニュースで、援農日本人たちもいるパレスチナ・タイベ村のビール祭の様子が流れて箸を落としそうになったとのこと。NHKがめずらしく取り上げて、1500人のパレスチナ政治犯のハンストや援農のデモ参加も。オリブ収穫援農の報告のお便り感謝。Mさん他お便りありがとうございます。

10月28日 今日、ペイルートの納骨墓参りの写真受け取りました。感謝！墓も新しく作り直され、パーシム奥平、サラーハ安田、ユセフ檜森、ニザール丸岡と上から戦死した順に写真と略歴入りで、石の棺の墓が地面にはめ込まれています。アラブでは、墓標は立てるのではなく、大理石の石棺のようにしつらえて、そこに写真や文字を刻みます。日本から訪れた丸岡さんの親族や四人の戦士の友人たち、アラブ・パレスチナ・レバノンの友人たちが囲む墓には、菊や百合の花が添えられ、墓石には赤い星を刻んだ丸い大理石が置かれています。オリオンの星でもあり、また、日本赤軍旗を表したものでしょうか。みな穏やかな晴れやかな良い顔で写真に写っています。様々なこと一人ひとりのこと思い返しつつ、思わず合掌し、こみ上げるものがあります。ここには記されていないけれど、オリブ山田(1971年1月ペイルートの海で水死)や、日高同志や他の仲間たちの闘いの志が、また連なっています。こうして墓を新しくし、訪問し、また、今も岡本同志を支えてくれている日本・パレスチナ・レバ

ノン・アラブの友人たちに心から感謝で一杯です。

ちょうど昨日、姉から届いたA4版の写真について、これまでは許可されていたものですが、「基準に沿って引き締める」ということらしく、大きすぎて不可または宅下げを言われたところでした。A4版でもハードの印画紙A4版でなく、ソフトな紙や普通紙の写真なら今のところ許可で、今日この写真が届いたものです。

規律の強化で、その他、荷物も箱一つにするよう指導されてしまいました。(東拘からの入所時から「私物用」一箱と「再審公判用」の一箱に分けて保持していたものが、すべて一つの箱に入れるようにと。)「すぐ」ということでなく、宅下げなどで、徐々に減らすようにとのことです。これも規律の沿った運用を前より厳しく適用することになっているようです。ウーン、荷物のコンパクト化が大変です。

Mさんからの日々のお便りは、地域の方々とのつながりや子育て、学校を通じた創造的発展を自然体で伝えられて、楽しみです。ありがとう！田崎さんより「オリブの樹」に寄稿くださったことと地域での活動や、働いている介護施設での様子、孫の保育園の運動会などの日常の様子ありがとう。その中でも、昔の現思研(明大時代の私たちの活動サークル)方式で、相変わらず地域なくてはならない人と求められているようですね。介護施設での敬老会を実行委員長で実現し、また、記録集もきちんと仕上げ、次に残るように作ったようです。書いたり、人々に話したり、まとめたり、現思研当時の私たちの日常でしたものね。45年ほど前のみんなの力は偉大！加えて、「11月13日には宮崎からバス2台貸し切って福岡に行きます。九電本社への抗議デモをするためです。『フクシマ』は相当な年月がかかるので、歳相応の知恵を出し合って子々孫々まで、引き継いでもらえる運動をしないとイケないのではないかと考えています」とのこと。「張り切っています」と元気なお便り。

10月31日 小春日和の暦のごとく暖かい日が続いています。ベランダに運動に出ると、太陽さんさん。週末は手持ちの書類資料のコンパクト化のため、土曜日、日曜りと読みつつ整理しましたが、まだ減りません。体調はまだ抗ガン剤投与中ですが、お腹がすぐ程に快調です。

Y先生は山形のドキュメンタリー映画祭の様子を伝えてくれました。「特別ゲストにハバナから3人のミュージシャンが到来。ものすごいパワーでラテンナンバーの曲を次々と演奏して深夜の小ホールを興奮の坩堝

にしていました。そこにPANTAがふらりとやってきて、『俺にも歌わせろ』と言わんばかりに、ギターを持って『14歳のムスタファ』を歌い始めました。はじめはキョトンとしていたキューバの3人もさすがプロだけあって、すぐ曲想を理解すると、背後で激しくコンガを叩いたり、スキヤットを入れたり、乗ってきました。パレスチナの歌詞にキューバのリズム。これは世界最強の音楽です。その手紙、「世界最強の音楽」の字だけ赤のサインペンで、想いが伝わります。それに東京新聞の切り抜き、Y先生の「キューバ映画と日本」論評も同封くださいました。感謝。「11月には、またパリに戻ります」とあります。世界をフィールドとして論じ講じているY先生、体調管理はしっかりとね！！

デジカメ歌人からは、嫁いだ娘に、夫婦で会いに札幌に行った霜降の円山公園の様子と歌「陽を浴びた君の小袖は錦なり纏う雪虫ほんのり青し」が心に滲みる北海道の晩秋の一首です。

また、Mさんからのお便り。毎日、ハガキ通信が楽しみです。先ほど5・6年生15人に読み聞かせをやったところを句と共に伝えてくれます。「読み聞かせ子らに刻まむ秋ひと日」

Uさんからも旧友のKと四国電力の株主運動に取り組むとの便り。かつての友人たちがそれぞれの故郷で反原発脱原発に関わっているのは頼もしい。他、友人たちのお便り感謝。

今日は10月尽。5時前の点呼にカーテンを開めようとして、三日月のような月を発見！ やっと見つけた！ 八王子に来てから捜していたのです。月の出から5時間～6時間後くらいで、月見できるのがわかりました。これからは月見も楽しめる！

11月1日 ユネスコの総会でパレスチナの国家としての加盟が承認されたという記事を読んでいます。アメリカやイスラエルの反対14、賛成は107カ国。日本は米追従と石油欲しさで棄権。国際政治でだらしない方針。私は様々な野心で賛成に替替え。米国はユネスコ資金最大の拠出国で、22%の8千ドルを出してきたのですが、ユダヤロビーの圧力でパレスチナが建国宣言した1988年のPNCの後、1990年に、PLOに正式な加盟資格を与える国連機関への拠出を禁じる法改正を行っているので、オバマ政権は馬脚を現してますますイスラエル寄りとなるでしょう。「ユネスコの拠出金を出さない」方が再び法改正して拠出金を出すよりも、ユダヤロビーの支持を得られる

と思うでしょうから。こうしたユネスコ総会の大多数の国の声を反映させる「国連改革」こそ問われています。アメリカ支配層の暴論は、国の内外からNO！を突きつけられています。

11月2日 小春日和が続いています。今日は運動場へ。グランドへの道にはピラカンサの赤い実の横を通り、足下にはなぜか春の花、母子草の黄色い花がぽつんぽつんと咲いていて、見上げると南天・桐が大木にたくさんの赤い実をつけていて、青い空とのコントラストが輝いています。今日はみな、三々五々、ウォーキング。芝生に寝転んで、真向法で空を見上げて、ユネスコ加盟のパレスチナ、あのジェリコの街やベツレヘムの教会やユネスコ登録するところは一杯あって、イスラエルの破壊や占領に対する国際世論が監視する役割になればいいけれど……と、考えてしまいました。青い空なので、地中海の空をダブらせたからでしょう。

今日の記事ではやっぱり米政府は「ユネスコへの拠出を凍結する」とのこと。凍結を2年続けると、加盟資格を失うか制限されるのは米国です。イスラエルに従うことが米国政府の選択です。政治家たちの延命のために。夕方、Y先生から「パレスチナのユネスコ加盟が認められました！ これでも世界遺産の認定が西岸ガザのどこかでなされたとすれば、もう爆撃も愚かな壁もできなくなるのではと期待しています」とのお便り。イスラエル現政権は愚かなので、国際的な世論や監視が必要ですね！！ これからパリとのこと。お元気で！

Mさん、新幹線日帰り、10・27経済産業省敷地内テント、路上で脱原発を訴える集会に参加してきたとのこと。友人のテントにつめていた仲間から三線で激励に来てと言われていて、ちょうど27～29日、福島からお母さんたち100人以上上京して抗議行動やるので、それに合わせて上京。「みな思い思いの格好、まちまちな表情ながら、それでいて共通のまなざし。何か新しいことが始まっている！ 全共闘の時と違うのは、女性がとても元気で人数も女性のほうが多い。女性が集会を主催し、自由な解放区として路上が使われていて、新鮮な集い」に触れた様子。「福島発の絵本も売っていて、『やっべはあ希望の光』というタイトルで、これだと思いました」とのこと。

3・11以降、日本人の日常の中に脱原発が生活の姿になっているのが実感されます。

11月3日 文化の日はいつも秋晴れの晴天ですが、

今年の八王子は曇り時々晴間といったところです。「祝日」で昼食時にチョコレートが添えられていました。昨日は合物の七分シャツとズボン下(綿)が配られ、夏物半袖やソックスなどが回収され、もう冬支度です。11月14日には、1年1度の実地監査が行われるとのこと。苦情などを書面または面談で訴えることができます。これまで訴えても「希望の開陳に過ぎない。却下」ばかり10年間。それでも訴えようか……、防寒や歯科治療について……と考えています。

11月4日 小春日和の秋晴れ。昨日の文化の日の分まで晴天。ベランダから少し覗ける下の萩を見ると、もう咲いていませんが、黄紋白蝶がひらひら。おとといはまだ赤とんぼが飛んでいて、寒さは遅いのでほっとしています。この間、入所時の「外部交通者の登録」に入っていない人で、頻繁に受信する人は登録するようにと言われて、今日10人分の登録用紙をもらいました。すでに30人以上登録してあるのですが。

夕方、Yさんから面会時にほしいと話していた資料送ってくれたとのことのお便り。感謝。来週には受け取れるのが楽しみです。また、久しぶりにTさんのお便り。多忙の稲わら農作業が終わって、一息でしょうか。泉水さんの「国賠訴訟」に加わっているの、その様子、MFさんらの力とY弁護士らの協力で進んでいることを伝えてくれました。みんなの力で成り立っていることに感謝と共に。他友人たちいつもありがとう！

11月7日 週末は雨が降ったり、もうそろそろ寒くなるかと思ったら、千葉では25度を越える夏日とか。八王子も今のところまだ寒さは大丈夫。週末は「日本の樹木」など大好きな植物図鑑を送ってくれた人がいて、資料整理の合間に楽しく見入ってしまいました。ちゃんとここに咲いているピラカンサも「ときわさんざし」として出ていました。「いい桐」は広辞苑にあったのに、この本には載っていなかったけれど、こういう樹や野草や料理や昔好きだった本に触れると楽しい。

今日は「回覧」で、カイロは12月1日～3月31日、手袋は11月18日～指示があるまで使用可能との通知。去年、カイロ防寒は12月1日処遇課に却下されて、「栃木刑でも許可になった」のを知って、1月に再願いを出し、2月中旬以降から許可になったので、以来カイロを使えるようになりました。今年はカイロと南向きの房でもやけがひどくならないように、はじめから工夫して過ごそうと思っています。

宮崎先生、大谷先生、Mさんらのお便り、嬉しく読

んでいます。カンパもありがとう。

今日は、朝採血しました。腫瘍マーカーの数値もまたチェックしています。その結果は、たぶん11月9日(水)の診察で知らせてくれると思います。

11月8日 立冬！そして私が逮捕されてから11年目の11月8日です。多くの方々に被害を与え、申し訳なさと無念さと様々な想い、今もこの日、胸にせりあがってきます。あの日、そんな中、「こうなったら本名でまた、人々、旧友たちと出会い直して、新しい出発にしたい。できるはずだ！」と、不遜ながら逆境の中で好奇心に似た希望がむくくと湧きあがったのも、また事実です。弁護士、救援連絡センター、旧友たち、友人、そして家族たちも、日本に帰ったことに驚きつつ支えてくださって、逮捕以来前向きに公判闘争も進めることができたこと、謝罪と共に感謝で一杯です。

娘たちも弁護士の努力で帰国し、新しい環境の中、友人、家族の支えで、日本での暮らしも10年を過ぎています。いつも海外の旧友同志たちと対話を心の中でくり返しつつ、獄中の仲間と弁護士をはじめとするみんなに励まされて、とても貴重な逮捕以来の日々を過ごしてきました。

ちょうど、私の公判と9・11事件から「反テロ戦争」の愚かなブッシュ政権の侵略とそれに唯従った小泉政権の時代が重なりました。検察は「反テロ戦争」と70年代の私たちの行動を結びつけ、「日本赤軍のリーダーであること」をもって、政治的報復のごとく、あれこれのシナリオ、新しい「自供書」を逮捕後から作文して、重刑攻撃に終始しました。日本の裁判所は、検察に「お墨付き」を与える機関のごとく、事実を検証せず、検察の主張におもね、結局20年の重刑に至りました。それでも、10年に及ぶ公判は新しい仲間、旧友、親族の友情と愛情と連帯の中で、前向きに力を尽くして闘うことができました。改めて、支え、励ましてくださったみんなに感謝します。残念なことは、公判に証人として再会でき、励ましあった丸岡同志が先に逝ってしまったことです。でも遅かれ早かれ誰もが通る道。私も定命まで、今でも学び、みんなと共に変革の道を楽しく進みたい！と欲張っています。一つでも前向きな話を多く、先に逝った友人、家族たちにも伝えるためにも。闘いは、やはり、辛いより楽しかったし、今もそうです。辺境から叶わぬあれこれ一杯夢想しつつ、みんなと抱き合う再会の自由を描いている11・8の記念日。そして立冬を迎えています。ありがとう！！

11月9日 晴天。ピラカンサの脇を通過して、坂を登り、運動場へ。ラジオ体操の後には、自由に走ったり歩いたり芝生に座って話をしたり。私はいつもウォーキングに真向法(これは、Kさん、Tさんが本を送ってくださって、覚えたもの)でゆったりと周りの景色や空を見て過ごします。もう桜の紅葉、黄葉は、ひっきりなしに落下しています。それでも陽だまりには、黄色の野げしが咲いて、タンポポも花を咲かせています。

今年に入ってから運動靴も許可されて、女区が運動場に出られるようになったのですが、自然に直に触れて秋空を見上げると、心が豊かになります。

今日の回覧では、これまで5冊の本以外は私物箱に入れるようになっていたのが、棚、枕頭台の下のスペースにも、本を何冊も置いてよいとのこと。その他、冬物のメリヤス厚手の下着以外は私物管理(メリヤスのみ領置可)となるとのこと。私物スペースが満杯です。それに「公判用」の一箱も不可のため(係争中でないもの、これから再審の公判文書は認められないと変わったため)スペース確保で大変です。今も整理中。

午後、診察。やはり、白血球の減少のため、明日からノイトロジン注射を5日間行い、その上で、再検査の上、OKなら16日からXELOX治療13クールに入ります。12クールの腫瘍マーカー、CEA9.0と微増、CA19-9は62.3と少し下がっていますが、軽い肝機能障害も指摘されています。CEAが前回同様に微増のため、第13クール、副作用を見ながら、点滴、経口抗ガン剤を増やすとの方向です。増やしてもまだ基準治療量より一段階の減量のままでありますが、これまでの2段階減量から少し引き上げるとのこと。副作用の具合と薬の量の選択をしつつ、まだまだ治療は続きます。

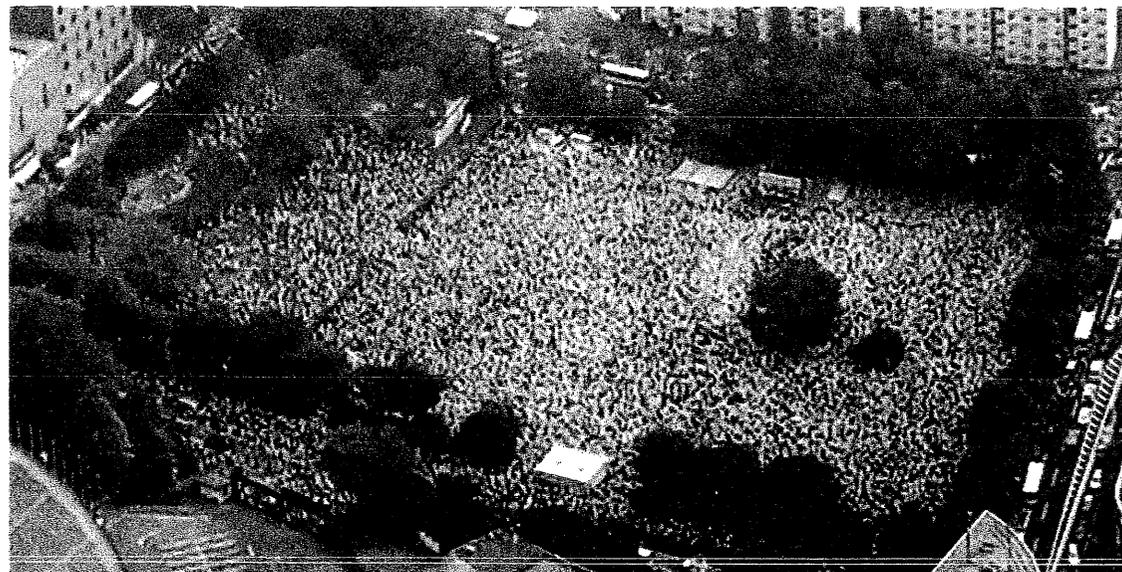
Mさんが、5日に奈良市であった沖縄集會の様子を伝えてくれました。本土の沖縄に対する何重もの差別が根本にあり、その上、沖縄で運動が盛り上がり、本土の闘争がなければ最終的には勝利しえないこと、沖縄の闘いは本土を問い、自分を問う、問われていることを改めて胸に刻んだとあります。そして、秋の一句。“新名所この秋一押し経産相”脱原発のテントが見えるようです。

もうすぐ銀杏が鮮やかな黄色の葉を落とし、並木道は美しいじゅうたんになる季節。去年の自分の一首を思い出します。“金色に立ち木も道も染め上げて銀杏並木の人みな笑みてゆく”。パレスチナのオリーブの収穫、そして闘いはどんな秋でしょうか。

全共闘は闘うぞ!(全共闘は闘うぞ!)

9.19「さようなら原発集會」内小集會

(これは明大出身のY氏が、氏のブログに掲載した脱原発集會(9月19日:明治公園)会場での全共闘世代を中心とした小集會における発言です。Y氏にお許しを得て一部の写真を転載しました。なお「全共闘は闘うぞ!……」のタイトルは当編集室が転載にあたって付けたものです。Y氏のブログのアドレスは、<http://geocities.yahoo.co.jp/gl/meidai1970> です——編集室)



9月19日、東京新宿区の明治公園で「さようなら原発 集まれ!5万人」集會が開催された。この集會とその後のデモ(パレード)に、明大、日大、芝工大の3大学共闘を中心としたメンバーが参加したので、その報告をする。

集會の前に3大学で小集會を持つということで、早めに家を出てJR「千駄ヶ谷」の駅に向う。「代々木」駅で総武線に乗り換えると、電車の中はそれらしき人たちで一杯。

「千駄ヶ谷」の駅前に出ると、待ち合わせをしている団体やグループの人たちでここも一杯。明治公園に向う歩道も人波で埋まり、歩いていくがなかなかたどり着かない。

小集會の前には何とか着いたが、まだ集會開始の1時間前というのに、公園内は半分ほど埋まっている。どのくらいの人があるのか見当がつかない。

1969年10月10日、この明治公園で行われたベ平連、全国反戦、全国全共闘、反代々木系各派(革マル派を含む)による「ベトナム反戦・安保粉砕・沖縄闘争勝利・佐藤訪米阻止」集會を思い出す。あの時は

主催者発表で10万人(警視庁発表は2万人)。

12時半になり、3大学共闘を中心とした集會が始まった。以下、集會での各大学からの発言を紹介する。(発言が聞き取れない部分は省略しています) 司會は明大の米田隆介氏。

司會

「私たちは40年前、よく明治公園に来て、いろんな集會を行ないました。いわゆる全共闘世代です。私たちは今回の3.11、あの原発の問題を踏まえ、40年間のいろんな想いを込め、再度私たちは闘いに立ちました。(異議なし)そして具体的には4月10日に芝公園で第1回目の共同行動を行い、6月11日の100万人アクションに呼応して、芝浦工大全学闘、日本大学全学共闘集會、明治大学全学共闘集會、明大土曜集會で統一行動をもって6.11の集會に参加しました。

そして、本日はこの第2波として、今日、9.19の集會に3大学共闘の名前を持って参加していきたいと思っております。

では、この間の問題につきまして、芝浦工大全学闘

オリブの嶺 第108号

のYさんより発言を受けたいと思います。」(異議なし)
芝工大 Y氏

「芝浦工大のYです。私たち芝浦工大全学闘は、昨年11月、「もうひとつの全共闘」という芝浦工大の闘争史の本を出版しました。そして私たちが昨年11月に、この本を出版して宣伝活動をしている中で3月11日、とんでもない事故が起きてしまいました。

しかしながら、私たちはこの原発、あるいは核という問題に振り返ってみれば、本当に40年間いったい何を成しえたのでしょうか。

確かに私たちは大学の不正や、また安保やベトナムこうした闘いに必死になって闘ってきました。しかしながら、この原発問題や核の問題に本当に私たち全共闘運動が取り組むことができたのでしょうか。

この大きなマイナス、私たちが出来なかった点をはっきりと反省するところから、この原発反対運動を進める必要があると思います。

4月10日、私たちはいち早く芝公園23号地での原発反対の「全ての原発を停止せよ」のスローガンの下に芝工大全学闘の旗を掲げました。

そして、明大の全共闘の人たちと日大全共闘の人たちと、共に同じ旗を掲げることが出来たのです。

それ以降、私たちは芝公園での集会やあらゆるデモに共に参加して、絆を深めることができました。

そして私たちは3大学が共に闘うことによって、全共闘世代がもう一度やらなくてはならない。私たち60代がこのままで眠り込んでいいのだろうか、決してそうではない、私たちがこの私たちの世代の責任を負おうとするならば、今、私たちができる範囲で老骨にムチ打ちながら闘いに参加しなければなりません。(異議なし)

そして、ますます我々は全共闘の旗を高く掲げて決して恥じることなく、我々ここに参加している一人ひとりが、芝工大全学闘であり、日大全共闘であり明大全共闘の一人ひとりが、そうなんだ、そういう我々がその主体なんだということを皆で確認しましょう。

私が日大全共闘である、私が明大全共闘である、私はいつになっても芝浦工大全学闘の旗を掲げる覚悟をもって、この原発を全て廃止するまで共に闘いましょう。(異議なし)

もっともっと多くの我々の世代の人たちに呼びかけて輪を広げながら、我々全共闘世代は闘うぞ、ということをおからの原発闘争の中で大きな旗を掲げているではありませんか。(異議なし)

今日は暑い中、共に闘い抜こうではありませんか。

(異議なし)」

司会

「だい昔の調子が戻ってきたようですね(笑)。皆さん元気に頑張ってください。続きまして、遠く山形の地より本日の集会のために駆けつけていただきました菅野君より明治大学を代表して発言をお願いしたいと思います。」

明大 K氏

「明治大学の生田共闘で5年間学生時代を過ごしました。その後、山形に帰って百姓になりまして、以来、37-8年農業をやっております。

福島まで120キロくらいでしょうか、沢山の福島の方々が私たちの住む長井市に来ております。もう帰れないというふうには、彼らは日々言っておりまして、安住の地を捜し求めているという現実があります。

私たち百姓も、原発の中に見られるような経済成長至上主義とか原理主義とか、その伸びきったところで今度の事故が起きましたが、一方で、TPPという皆さんご存知でしょうか、アメリカを中心とした新しい連携協定を作ろうとしている、そのことで、最終的に農業が無くなるようになっています。それに対する闘いを組んでいる最中の原発事故です。

今後、どのような形で土を処理した生業を、というよりもこの国の食糧生産の基地を農民としてどういう風に守っていけるかということについては、まったく暗澹たる気持ちでおりますが、しかし、先程の芝工大の先輩の話聞いておると、実に健康な言葉を続けながらご自分の気持ちを明らかにされておりましたし、久しぶりに異議なしという言葉が40年ぶりでしょうか、聞くことができました(異議なし)、やれると、まだ60だけどやらなくてはならないという気持ちを再び持つことができた、そのように感じています。

芝工大の方々には思い出がありまして、この明治公園において明大生田の隊列のすぐ脇に芝工大の学生諸君の隊列がありまして、このマイクが壊れて、明治の工学部の学生もいた訳ですけど、何とも直しがたくいるところに「俺に貸してくれ」と芝工大の方々が持って行ってきて、直ぐに直してくれたということがありました。(異議なし)

今、またこういう所で、場を共に出来るということに嬉しさを感じています。

今日は頑張ります。皆さんよろしくお願いします。(異議なし)」

司会 「だんだん本調子に近づいてきたようですが、では、続きまして日大全共闘を代表して発言を受けたいと思います。Nさんお願いします。(異議なし)」

日大 N氏

「未だに日大全共闘だと思っています。日大全共闘なので、あまり難しいことは掲げません。デモでハネたいと思っている人もいるかもしれませんが、そういう人はハネてもいいんですが、後は面倒見ますから。できればこれから長い闘いなので歳を考えると、程ほどに出来れば、少しずつやっつけていこう、ということをお呼びかけたいと思います。よろしくお願いします。(異議なし)」

司会

「今、飛び入りでちょっと昔、毛色が違ったんですが、横浜日大全共闘の人が見えていますので、一言発言をお願いしたいと思います。(異議なし)」

横国大 K氏

「米田さんと同じ杉並区で区議会議員をやっています。米田さんに応援していただいています。今日は共に頑張らしましょう。」

司会

「続きまして、専修大学のK君から発言を受けたいと思います。」

専大 K氏

「専修大学生生田校舎におりました。明大生田の方とは、谷を隔てて一つだったんですが、専修大学の全共闘は1969年の1.18-19が終わって4月以降の結成です。

1回もバリケードというものが築けないままに大量の逮捕者を出して終わってしまいました。

さて、この原発の被害は全国各地の農民に多大の苦しみを与えています。(ナンセンス)

一昨日、静岡の農家の方とお会いすることがありました。

3.11の事故以降、3月18日に私はタンボガ舎の面々と浜岡原発を見してきました。とんでもない施設です。地元の人たちから土塁といわれてる天然の砂丘があるんですが、それによって守れるんだというようなことを言っています。しかし、地元の人や周辺の農家の人は全くそのことを信じていません。

もし、浜岡原発で同じようなことが起きたとすると、恐らく日本経済は壊滅するだろうということが分かっています。今、この原発の問題は、チェルノブイ



リ以降は都会を中心として様々な市民運動が形成されました。

今日の事態は被害を受けた福島、宮城、岩手、青森など地域の農民とともに私たちがどのような形でとり結ぶことができるのかを健たろうと思います。

その意味では、反原発運動としての地域住民闘争を展開しなければならぬ私は思っています。

今日の参加は専大からは1人ですが、1人でも専大全共闘を担っていきたい、このように思っています。(異議なし) よろしくお願いします。」

司会

「だんだん過激な発言が出てきているようですが、今日、他の大学の方でここに参加している方がいれば・・・。金沢から桜美林大学の仲間が駆けつけてきています。お願いします。」(異議なし)

桜美林 H氏

「大学は桜美林大学ですが、当時少数派でしたが、全共闘グループで頑張っていました。(異議なし) 当時の思い出としては、淵野辺の戦車阻止闘争が一番大きなエポックになりました。僕は今、金沢にいます。今、再稼働が各地で話題になっていますが、私のところでも北陸電力志賀原発2号機の再稼働の問題が出ています。

この間、ずっと再稼働を阻止するために裁判を起こしていた訳ですけど、高裁で原発の再稼働差し止めの判決が出ました。だけれども、結局は最高裁でひっくり返されて敗訴になりました。今、原告団が解散してピースネットという、それをもっと広げた形で、石川

私の「重信房子がいた」時代

由井さんの事

由井さんが重信さんの事を書きたいと言ってるのを知ったのは、確か01年頃だった様に思う。その年、メイちゃんが帰国していて明治のかつての旧友たちが集いをもって重信さんの救援活動を本格化した時である。私もそれに出席する為に上京した。二次会の「祭」での席で私が宮崎出身と知ってか、重信さんのお父さんは旧制都城中学だったことや、都城に親友の池袋さんという方がおられるという事等を由井さんから聞いた記憶がある。あれから10年、紆余曲折を経て一冊の本が出版された。「重信房子がいた時代」である。

由井さんは私と入学が同じ年である。重信さんがあとがきで活写している様に「キュートでボーイッシュ、グレーのジャケットを品よく着こなしてステキな新入生」の姿を思い起こすことができる。付け加えるなら、彼女の傍にはいつも背の高いS君がいて、田舎出の私はそのスマートさに羨望の眼差しで見っていたものである。

入学の頃

私達が入学試験を受けた頃は、機動隊や、やけに規律正しい学生服の男たちに見守られての受験だった。西も東もわからぬ田舎者だったけど、好奇心は人一倍あった様に思う。目にするもの、聞くもの全てが新鮮で驚きの連続だった。歴史的裏切り、ボス交と言われた「2・2協定」[編集室註：1966年6月から67年2月まで明大で学費値上げ反対闘争が闘われた。この闘争は理事会と学生会中執委員長による合意、いわゆる「ボス交」「2.2協定」により終結した]は受験のわずか数日前の出来事であり、当時は知るべくもなく後でたっぷり先輩たちから聞かされる事になる。

現思研との出会い

好奇心旺盛だった私は当然の如く、現思研に出入りするようになった。だがどうしてそうなったか今思っても思い出せない。誰に誘われたのか？最初は二部政経自治会に関心を持ちそちらに行った様に思う。当時の政経自治会委員長が現思研のキャップ的存在であったU氏だったからである。U氏と重信さんとでこのサークルは進んでいるのだとわかったが、ブントの活動家養成所だとはつゆ知らずであった。後に親友となるO

田崎 哲史

は入学後日にちも経ってないのに沖繩デーのデモに参加して来たと言うし、Kは党宣言読んでるかとか訊くし、周りは既に自分から見れば大人びた者ばかりの集団で、エアリ所に来たとは思ったが新しい友人との出会いや、語り合いは刺激的でワクワク、ドキドキの毎日だった記憶に満ちている。今、土曜会で一番親しくさせてもらっているクラケンは一学年上で、いつもガリ切りをしていた。彼の立て看板作りは当時からのもので彼が今それを生業としてるのもうなずける。よど号の田中[編集室註：1970年3月31日—4月3日、赤軍派の9人のメンバーが、革命のための国際根拠地を作るとして日航機「よど号」をハイジャックして北朝鮮(朝鮮民主主義人民共和国)に渡った。メンバーのうちの一人、田中義三は96年カンボジアで身柄拘束され、タイを経て2000年日本に引き渡され、06年11月熊本刑務所に服役中肝臓がんがわかるが、07年1月1日死亡]もうまかったが、彼はクラケンを目標にしていたと後に語っている。ホンマ氏も現思研ではないがこの時期に出会ったひとりだ。

適応障害

都会の生活は何もかもが刺激的で、田舎育ちの私には知らずのうちに神経が磨り減っていた様で、入学して間もない6月頃に原因のハッキリしない病気になって入院のはめとなった。今で言う適応障害の様なものだったのではないだろうか？心細かった私を励ましてくれたのが重信さんを始めとする現思研のメンバーだった。病院に良く見舞いに来てもらった。こんな時の重信さんは姉のような存在で、その優しい心遣いが身にしみた。

由井さんの本の中でしきりと「救対の重信」と出て来るが、やはりこの人の、人に対する優しさが本能的にそうさせていたのだと、今にして思う。新入生歓迎で城ヶ島での海辺での語らいや、夏に親友Oの故郷新潟でおこなった合宿での顔を合わせての語りの中にこそ、重信さんの人を惹きつける魅力はあったのだ。私は今でもこの人に大変な道に引き込まれた等という被害者意識は毛頭ない。還暦を過ぎた今でも楽しんで現思研をやっている感覚なので、むしろ感謝の気持ちの方が強い。

10・8の頃

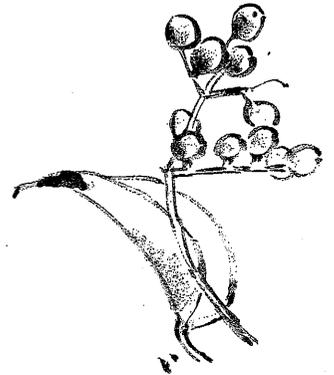
44年前の10・8第1次羽田闘争の事は未だに忘れる事はない。曇りつない秋空だった。明大学生会館に泊り込んでいた私は学友と共にお茶の水駅から電車に乗った。行き先は羽田なのだが、果たしてどの駅で降りるのかも知らされていない。何せ初めての本格的デモなので不安いっぱいなのだ。京浜急行大森駅で急に降りろとの指示があり、降りた所から駅舎を乗り越えて出た所には機動隊がいる。線路の敷石で投石して機動隊を追い散らしたのを良く覚えている。後は高速道路給が森ランプを只ひたすに羽田に向けて走った。機動隊員が頭から血を流して倒れている。横を見ると重信さんの姿が見えた。救対の腕章をはめて救急箱を持っていた様に思う。この後由井さんが書いているのは通りがかりの車を止めて負傷者を病院へ運んだ事になっているが、私はその場に居合わせた重信さんが生理的に嫌いだだったというMLのM氏の指示で明治の学生会館に直ぐに引き返した事を鮮明に覚えている。だからデモの先頭が道を間違えて羽田とは別の方向に行った事を知ったのは、皆が帰って来た夜になってからである。

武装闘争のはじまり

第1次、2次の羽田闘争を経て学生の運動は精鋭化して、本格的な武装闘争に突入して行く。68年3月、三里塚空港建設反対闘争で初めて逮捕された。由井さんの文中に出てくる「おいなりさん事件」はもしかしたら、この闘争の前夜の事だったかも知れない。

釈放後、学生会館に行くとなら現思研にも多数集まって来ていた。その中に後々深い絆で結ばれていく田中義三がいた。この男、浪人中に10・8の事を知り、いてもたってもおれず入学して来たことあって、その年の10月国際反戦デーを前に、防衛庁突入占拠に参加しているのである。

翌年、東大闘争と益々激しさを増して行くのだが、その間には仲間内のゲバルトもあり私の中の気弱さも手伝って段々武装闘争に懐疑的になっていった。由井さんも書いているが、重信さんは学内であの活動家独特の激越な口調の演説などしたのを聞いた事がない。「ディスクジョッキー」「民青的」と揶揄されても仕方がない位、心情に訴える言い方であった様に思う。表舞台より裏に回り段取り良く根回しする役割が似合っていたし、事実当時は彼女の方で多くは実行されていたのだろうと思う。



ブント内部対立

闘争が激化して行くのに歩調を合わせるかの様にブントの内部では、論争が激化していた様だ。「現思研は理論でなく心情で結ばれた家族的集団」と何処からともなく批判を受けていたそうであるが、私はその典型で理論とは程遠い位置にいた。マル線派との論争の後には赤軍派結成のキッカケとなった、左派対中間派・右派との論争である。詳しくは他に譲る事にして、論争の行方は7・6和泉校舎事件[編集室註：明大和泉校舎でブント議長を執行部批判派が負傷させた事件]となって表れた。私は学生会館に残っていたのだが、成り行きから右派の襲撃が予想されるので逃げよという指示の下に、行き先も分からず指揮者に従って電車に乗った。着いた所は横須賀線追浜駅近くの関東学院大学であった。事情の分からぬまゝ只付き従って来ただけで、来ては見たが戸惑いと開けぬ展望にここから抜け出す事ばかりを考えていた。相談するなら重信さんと親友田中しかいない。でも相談した所で結果は見えている、ならば黙って去るしかないかと決断した。

その後2ヶ月位経った9月に田中から会ってくれとの呼び出しを受け、市ヶ谷の法政の近くで会った。結成された赤軍派の秋の武装蜂起への誘いである。熱っぽく蜂起を語る田中に対し、冷めていた私の決意固く、もう田中とは生きて会えないと覚悟した。だが30年後の99年、タイで逮捕拘留されていたチョンブリ刑務所で再開を果たした。

重信さんとの交流も思い出深いに拘わらず67年4月から69年7月までの2年余りに過ぎないのだ。由井さんがそうであった様に私達の関係は期間の長さではなく過ごした時間の濃密さであった様に思うのである。

あれから40余年

由井さんの「重信房子がいた時代」を読むと40余年前のあの時代が鮮やかに甦って来る。傍にいても私の知らない事をこの本で知らされた。例えば重信さんがパーで一時期働いているのは知ってはいたが、果たしてどんな所かまでは聞いてはいなかったし、訊ける立場でもなかった。教職実習、詩作についても然りである。でもとにかく人の話は良く聴いてくれる人であった。ある時、男4人が飲んで論争になり、難問が出て解決法は重信さんに訊いて見る事となり、公衆電話からひとりひとりが話をするはめになった。最後は私だったのだが、先に3人がぐだぐだ言った後なのに親切且つ懇切に話をされた事を今でも覚えている。

思い出を語ってはいくら時間があっても足りない。いくら時が経ち時代が変わろうとも、あの時代を共に過ごした記憶が薄れる事はない。

今年の3・11以降、かつての全共闘運動を体験した人々が又、かつて所属した大学の全共闘の旗を立て、「反原発運動」に立ち上がっている。元日大全共闘だったO氏の『われわれにとって「全共闘」とは過ぎ去った青春への憧憬でもなければ、人生を彩る熱狂の一時でもない。今なお胸底に生き続ける意思である』という言葉の具体的表現であると思っている。明大土曜会も又その様な方向で動いている様である。

私もあれから地元宮崎の地で、無認可保育所、反転

害、反原発、労働組合等様々な運動に参加して来た。どれも「現恩研精神」でやって来たから、苦しいというより楽しくやって来たという実感の方が強い。今、又選歴ヘルパーとして介護施設で働いているがこの施設から今年、初めての100歳を迎えられた利用者が誕生した。8月の誕生日に合わせて聞き取りを行い、「聞き語り100年ものがたり」として、小冊子にまとめ9月の敬老会の場で朗読を行った。これを地元の宮崎日日新聞が取材し記事を掲載した。この記事を見たという「小さな親切宮崎支部」より電話が入り、来月11月に表彰を受ける事になった。なんとという奇遇か！由井さんの本で知った、重信さんが小さな親切運動が始まった最初の年に受賞したというあの賞を48年後に私ども（企画実行は私を含む職員2人）が受賞するなんて！

認知症の人達の聞き取りはかなり難しい。同じ事の繰り返しであったり、時代が前後したり、ある部分は詳しいがそうでない部分があったりである。でもその人の人生で一番輝いていた頃の記憶は実に鮮明だ。もし仮に私がもう少し長生きして誰かが聞き取りにでも来る事があるなら、又、認知症になったとしてもやはりこの「重信房子がいた時代」を生き生きと誇らしげに語るに違いない。「君はあの重信房子を知っているかい？」と……。

（宮崎市在住）

後書

福島第一原発事故から8ヵ月を過ぎました。その被害の大きさと広がり、そしてその被災期間の長さはいまだに予測できないものがあります。除染作業一つをとっても一度で終わるものではなく、雨が降る度に繰り返し屋根を洗ったり、土を削ったりしなくてはならないでしょう。それらの排除場所も探さなくてはならないでしょう。その第一の責任が東京電力にあることは疑いようがないはずですが、しかし、まるで東電が被害者で、危険地域の人々が加害者であるかのような、何か逆転したような雰囲気があるのはなぜでしょう。東電による被災保証金は、東電が払えなければ、国が支払うという形で、電気料金を上げたり、税金をまわしたりするそうで、結局は国民が負担することになりそうです。それに引き換え、被害を被った危険地域の方々は保証金を受け取るために大部な書類を渡されて、詳しく書き込まなくては保証金を受け取れないということで、大変な苦勞を強いられています。どうしてこんなことになるのでしょうか？

東電と国に責任追及するだけでは問題の解決にはなりません。問題はそういうエネルギー政策を許してきた私たち自身を振り返って、変えてゆかなくてはならないでしょう。現在の原発設置決定権の所持者である総理大臣や、原発を設置することになる、往々にして地域産業が少ない小さな街や村の人々に判断を任せるのではなく、エネルギー政策は日本人全体で決めるという制度が必要です。なぜなら、今回のことで分かったように、放射能被害というのは一地域に止まらず、日本全体、そして世界中に広がる問題だからです。私たちは、判断を人任せにしないで、一人ひとりがしっかりと考えて決めていかなくてはなりません。

因みに、12月1日から、東京と大阪でエネルギー政策をめぐる国民投票を要求していく署名運動が始まるそうです。

Y

連絡先 〒105-0004 東京都港区新橋2-8-16 石田ビル5階

救援連絡センター気付 「重信房子さんを支える会」

郵便振替 00110-4-613941 オリーブの樹

銀行口座 三井住友銀行 赤羽支店 226-3687269 オリーブの樹

頒布価格 500円

「正誤」表

第 108 号

- | | |
|------------------------|---|
| ① 9P(10/7)右下から 17 行目 | <u>全国各地</u> → <u>全米各地</u> |
| ② 14P(11/1)右下から 8 行目 | 22%の <u>8 千ドル</u> → <u>8 千万ドル</u> |
| ③ 15P(11/2)左4行目 | 見上げると <u>南・桐</u> が→見上げると <u>南天桐</u> が |
| ④ 16P(11/8) 左下から 18 行目 | <u>シナリオ</u> 新しい「自供書」を
→ <u>シナリオ</u> 。新しい「自供書」を |
| ⑤ 16P(11/9)右下から7行目 | <u>経産相</u> → <u>経産省</u> |
| ⑥ 16P(11/9)右下から3行目 | 金色に <u>立ち木</u> も→金色に <u>木立ち</u> も |